

## 評価・評定について

### ア) 本校の評価・評定について

本校の評価はA～Cの3段階、評定は5～1の5段階となっています。評価・評定の意味は以下の通りとなっています。

#### 評価

- A・・・十分満足できる。
- B・・・おおむね満足できる
- C・・・努力を要する。

#### 評定

- 5・・・特に高い程度のもの
- 4・・・十分に満足できる
- 3・・・おおむね満足できる
- 2・・・努力を要する
- 1・・・一層努力を要する

また、本校は絶対評価で重み付けを使用しない評価を行います。

絶対評価・・・学習指導要領に示された目標に照らし合わせその達成状況を見る評価です。

評価規準・・・各教員が生徒の身に付けるべき資質や能力を観点から分析して下す評価きまり。  
例えば理科の実験で観測器具（顕微鏡）を使用する場合、

- A 「自分で観測器具を適切に操作し、結果を記録している」場合
- B 「教師や他の生徒の指導を受けつつ観測器具を適切に操作し結果を記録している」場合
- C 「適切に操作できない」場合

というように、数値で表せないものを評価するときに設定します。

評価基準・・・学校が設定する生徒の達成率に応じてつけるべき評定のきまり。

**大田区中学校全校で共通の値です。**

### 本校の評価基準

観点	到達度	評定	到達度
A・・・(80)%以上		5・・・(90)%以上	
B・・・(50)%以上 (80)%未満		4・・・(80)%以上 (90)%未満	
C・・・(50)%未満		3・・・(50)%以上 (80)%未満	
		2・・・(20)%以上 (50)%未満	
		1・・・(20)%未満	

### イ) 通知表の記載について

通知表に記載する評価・評定は以下の通りになっています。

1、2年	3年
1学期・・・1学期の評価、評定	1学期・・・1学期の評価、評定
2学期・・・2学期の評価、評定	2学期・・・1、2学期の評価、評定
3学期・・・1年間の評価、評定	3学期・・・1年間の評価、評定

特に2学期の評価・評定に気を付けてください。

### ウ) 評定までの流れ

- 1) 評価資料を採点する
  - ・ノート点・小テスト点・発言点・レポート点・提出物点・テスト点・作品点など
- 2) 観点別評価を作る
  - ア 評価資料を観点別に集計する。
  - イ 各観点の満点に対し、到達度が何割であるかを計算する。
  - ウ イで求めた割合を下記の基準に当てはめて観点別評価の成績を求める。

### 3) 絶対評価をつける

- ア 観点別で集計した評価資料の点数に従い、計算する。
- イ 全評価資料の満点に対し、到達度が何割であるかを計算する。
- ウ イで求めた割合を下記の基準に当てはめて成績を求める。

#### 例) A君の観点別と絶対評価のつけ方

- 1 評価資料を蓄積し、点数化を行う。

ノート	10 / 20	小テスト	20 / 20	自己評価カード	5 / 20
テスト	95 / 100	レポート	20 / 50	提出物	5 / 20
作品	40 / 50	パフォーマンステスト(パフォオテ)	15 / 25		

- 2 評価資料を規準と評価手法に則り、観点別に分ける

テスト、小テスト、作品	→	知識・技能
レポート、ノート、作品、パフォオテ	→	思考・判断・表現
提出物、自己評価カード、パフォオテ	→	主体的に学習に取り組む態度

- 3 観点別に評価資料を集計する

例えばこのような結果になったとします。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
点数の合計／満点	155 / 170	85 / 145	25 / 65

- 4 割合を求め、観点別評価をつける

本校の観点別評価の到達度は … A ~ 80%  
 B 80% ~ 50%  
 C 50% ~

ですから、

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
点数の合計／満点	155 / 170	85 / 145	25 / 65
	↓	↓	↓
割合	91.1%	58.6%	35.5%
観点別評価	A	B	C

となります。

- 5 合計し、評定をつける

全ての観点の到達度の合計を割合で出します。

上の例の場合、3つの観点それぞれの満点は100%です。そのため合計は300%です。

これを平均化し、100%にするため3で割ります。

$$(91.1 + 58.6 + 35.5) \div 3 = 61.7\%$$

評定基準は … 5 100% ~ 90%  
 4 90% ~ 80%  
 3 80% ~ 50% ← であるので絶対評価は「3」になります。  
 2 50% ~ 20%  
 1 20% ~

評価評定はテストの点数だけではなく、提出物や実技の点数など全てを総合したものです。

観点別評価はABCの3段階で評価し、評定は5段階で評価をするため、その結果がわかりにくい場合があります。学年末の評価と評定の関係を以下の表で示すので参考にしてください。

評価	評定		
AAA	5 4	ACC	3 2
AAB	5 4 3	BBB	3
AAC	4 3	BBC	3 2
ABB	4 3	BCC	3 2 1
ABC	3 2	CCC	2 1